

4 色絵富士図花瓶

薩摩焼

明治四十年（一九〇七）

陶磁

径三九・〇、高九三・〇

一点

このような白い素地の薩摩焼を白薩摩といい、色絵と金彩による華美な絵付けにより、幕末から明治前期にかけて海外に輸出され好評を得た。本作の胴部に巨大なスケール感で描かれた富士図は、手前右側に松原が描かれていることから、駿河湾に突き出した三保の松原より望む富士である。富士山は頂に白釉で雪を冠して、その下に陽光を受けて光り輝く山肌が金彩で表

されている。首部の赤と金彩で縁取られた剣木瓜形の四方の窓には、兜、弓矢、采配、刀がそれぞれ描かれている。本作が明治四十年（一九〇七）に鹿兒島在郷軍人総代・猪俣重雄より献上されたことから推測されるように、尚武のイメージが備わったものである。底裏には、画工を務めた有山長太郎（二八七一〜一九四〇）ほか二名の工人の名前が記されている。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan